



ロータリーは機会の扉を開く

RI 会長：ホルガー・クナーケ

2620 地区ガバナー：荒山 潤朗

会長：上村 計介 幹事：内山 義之 会場監督：桑原 伸夫

例会：毎週金曜日 19:00～20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中央区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2021年1月22日(金) 晴 第1548回例会 週報 NO. 16

司 会：桑原伸夫 会場監督
点 鐘：上村計介 会長
ロータリーソング「手に手つないで」

ゲスト

静岡第5グループガバナー補佐
杉浦 仁様
IM 実行委員長
山田 喜康様

ビジター

会友 山下善彦さん

会長挨拶



今日は雨もパラつきましたが、暖かい良い日でした。

杉浦ガバナー補佐、山田 IM 実行委員長、ようこそお越しくださいました。このような状況での運営は大変なことだと思います。今日は地区や第5グループの現況や、明るい展望をお話し頂ければと思っています。5月の祭りの風も今年は揚がるということで、見通しがついて来ていると思います。

寂しいお話ですが、竹山英夫さんが12月末で退会となりました。随分活躍して下さいましたので、残念です。御苦労さまでした。

ガバナー補佐ご挨拶

☆杉浦仁 ガバナー補佐



日本には「武士道」と言う言葉があります。これは明治時代に新渡戸稲造氏が作った言葉です。武士道の考え方はもっと古い時代からありましたが、それに名前を着けて本にしたのです。

新渡戸稲造は盛岡生まれ、キリスト教徒で教育者、農学者です。米国に留学し、アメリカ人と結婚し、英語で“Bushido”という本を書き上げました。これがベストセラーになり欧州にも伝わり諸外国での日本理解に大いに役に立ったそうです。後に日本語に翻訳されて今でも書店で売られています。

欧州には「騎士道」があります。身分のある者がその任務や日々の生活において従うべき規範です。これは今ロータリーでも言われている「Noblesse oblige (ノブレス・オブリージュ) =高貴な身分に伴う義務」で、「ロータリアンは選ばれし者であり、奉仕は選ばれし者の義務である」ということです。

ロータリーの言葉では「思いやりの心をもって他人に尽くす」、「最も奉仕するもの、最も多く報いられる」。これからもご奉仕をお願いします。

☆山田喜康 IM 実行委員長



本来ですと IM のご案内をする時期ですが、コロナ感染予防の観点から今年も中止とさせていただきます。12月初旬の実行委員会、また各クラブの会長幹事さんにも伺って、結論を出しました。延期しても地区大会や次年度もあってスケジュール的に難しいですし、縮小やリモートは IM 本来の目的に合わないということです。心苦しいですがご理解をお願いします。

幹事報告



・江之島高校のクリアファイルができました。レターケースにあります。ご希望の方はポスターをお持ち下さい。表彰式は1月26日に行われますが、このような時期ですと、少人数で参加します。

・R 財団、米山寄付の確定申告用の領収書ですが、まだクラブに届いていません。必要な方は事務局へお申し出ください。

・先ほど理事会を開催しました。
IM 中止に伴い、その週の例会は休会にします。また、4月2日は入会式と観桜会の予定でしたが、通常例会にします。来月のファイヤーサイドは方法を検討して実施予定です。

・佐々木さんは奥様がコロナ病棟勤務となり暫く休会します。

委員会報告

☆川井啓介 出席委員長

12月迄の出席状況のチェック表を回覧します。訂正があればお申し出ください。また、欠席の多い方には周りの方から声かけをお願いします。



スマイル

♪上村計介さん、内山義之さん

今日は杉浦ガバナー補佐、山田IM 実行委員長、宜しく願い致します。また、会員卓話はどなたのお話を伺えるか楽しみです。

♪中村将義さん

クリスマス例会にはレストラン連理のケーキを召しあがって戴きありがとうございました。コロナでレストラン売り上げが下がる中、とても助かりました。本日はテイクアウトのご案内をレターボックスに入れました。こちらもよろしく願い致します。

会員卓話

進行：中村将義 奉仕委員長



☆ 山城一哲さん

まず、仕事柄ふるさと納税について。皆さんやっている方が多いと思いますが、これはやらないと

損です。寄付金相当については全額税金から控除になり、さらに三割相当の返礼品については儲けものになります。

但し、あまり過度な寄付をすると、税務署から呼び出しのある方が多々あるようです。何故かというところは一時所得になるので、50万の控除がありますが、それを超えるとその差額については申告が必要になります。200万円の寄付金として3割が60万、つまりそれ以下で考えて頂ければよいわけですが、それが一つの落とし穴です。もう1点、同じ年に生命保険解約などの他の一時所得がある時も注意が必要です。

自分は健康だと思っていたのですが、12月に健診をやったら、肝臓の数値が異常に高くてびっくりしました。1週間後再検査をしたら何ともなかったのですが、これは最初の検査の時、頭痛がして鎮痛剤を服用していたのが原因のようでした。とはいえ、結果が出るまでの2週間はロータリーを辞めることになるのではないか、などと本当に心配しました。

3点目は相続税についてです。相続税は平成27年に相続法が改正されて、基礎控除額が下がり、相続税の申告をする人が倍以上に増えました。

税務署の調査で見ると、1億円から3億円の間、この規模の調査が多いそうです。その次に多いのが1億円以下の人です。税務署は不動産についてあまり見ないで預貯金の調査をするそうです。例えば、家族名義預金などにポイントを絞っているようです。贈与をしたから相続財産に入れなくても良いと思っていらっしゃる方が多々あるようですが、税務署はこの贈与を否認しているケースがあるとのこと。契約書や印鑑、通帳の動きがあるかどうかなどで判断するようです。



☆峰野好正さん

私の会社、有限会社ミネボーは祖父が始めて、私で3代目です。私は5人兄弟の三男坊なので、まさかボイラー屋をやるとは思ってませんでした。長男次男はボイラー会社に就職し、そのままボイラー屋をやっています。私は大学卒業後、商社に8年勤めました。実家が遠鉄高架の際に代替地をもらい、そこに30歳の時に帰って来ることになりました。その時に入会したのがJCで、山城さんと同期です。私の会社は産業用のボイラーの販売・修理・整備を中心に行っています。コロナ禍になっても、ひどい時で15%ダウン程度で仕事はできています。

家族は子どもが3人、孫が8人います。仕事をしているのが好きで趣味のようなものです。

ロータリーは14年目。同期は眞瀬さんと佐々木さんです。ロータリーで楽しかったのは旅行です。

最初は山口先生のブッダ基金のネパール。楽しかったですが、帰りの飛行機(中国東方航空)で苦勞しました。次は中山さんと佐藤さんに連れて行ってもらった台湾。どこへ行っても紹興酒や美味しい食事が出て来ました。次はソウルの世界大会で半场さんと行きました。ロータリーのバッジをつけているいろいろな人が話しかけてくれました。街を歩いていると日本語でよく声をかけられるので「なぜ私が日本人だと思うのか」と聞くと「たるい顔をしてる」と言われました。最後はハンブルグの世界大会です。一緒に行った山下さんは面白い方でツアアの予定にないことをやらせるのです。500kmをバスで移動するところを、ドイツ新幹線に乗ってフランクフルトへ行き観光をしました。奇想天外の面白い旅行でした。

入会の時に唐澤さんに「まず出席だぞ」と言われましたが、その意味がわかったのは10年くらい経ってからです。とりあえず出て来て、仲間と会うのが楽しくなる。それがロータリーの意義だと思います。

ロータリー以外では「いのちの電話」の相談員を15年間やりました。電話をかけてくる人は60%位が心に病があります。全国の自殺者はここ5年くらい減少していましたが、

今年は増えている。特に女性が増えていると言われています。今までは7対3で男性が多かったのです。男性は相談ができないので自殺に走る傾向があります。自殺するのは孤独と絶望が一緒になった時ではないかと私は考えます。「いのちの電話」は絶望には解決策を与えることはできませんが、孤独に対しては寄り添うことができます。ですから、二つ一緒にならないようにすればよいと思っています。

私はこの3月でロータリーを退会します。ある本に、「人生の最後は人生で一番楽しかった時に戻りたい」とありました。私は大学の時に入ったゼミで学ぶことの楽しさを教えてもらいました。ですから、最後はそこへ戻りたいと思いました。中村元（はじめ）先生の仏教哲学の本を読み、興味を覚えました。そのお弟子さんたちが仏教に関する授業をしている学院があり、そこに参加することにしました。昨年はコロナで一年休校になってしまいましたが、この4月からそこに行きます。

人生の終わり方、宮沢賢治の詩の最後の部分が好きでそのように終わりたいと思っています。それを紹介します。

「みんなにでくのぼーと呼ばれ
褒められもせず、苦にもされず
そういうものに私はなりたい」



☆鬼頭秀行さん

峰野さんのネパールには私も同行しました。カトマンズ空港に着いたのが夜の12時。ホテルまでバスで10分くらいでしたが、窓の外は本当に漆黒の闇でした。人生の中で一番の暗さでした。

ハンブルクはスケジュール外のことが楽しかったです。大勢で行くといろいろなことが起こります。

2年前に仕事をやめて、鈍行列車の旅をしたかったのですが、このような状況ですので、楽しみはもっと

後になるかなと思います。

市の1歳6カ月検診や介護認定審査には携わっています。1歳6カ月検診をやっている最近感じることもあります。今まではなかったことですが、去年の10月頃から問診票の「困ることは何ですか？」という質問に「経済的に非常に困っている」と答える人が40人中1～2人いるのです。コロナの影響と思いますが、政治家の方には若い世代が苦勞しないような政治を望みます。

子どもの少子化も大きな問題で、昨年度は80万人を切りました。子どもが生まれないことは日本にとって危機的状況です。

コロナは変異型が出て来て今後どうなるかわかりませんが、ワクチンについて調べてみました。

今までのワクチンはそのウィルスを弱毒化して免疫を作るというもの、またはウィルスを殺しておいて作る不活化ワクチンでした。弱毒化するには非常に時間がかかるので、一つのワクチンを作るのに5～10年かかります。

ところが今回は一年足らずでワクチン接種が行われるという驚異的な早さです。今までとは全く違うワクチンが作られるということです。この遺伝子ワクチン、またはDNAワクチンは接種により自分の体の中で抗体・免疫を作るのではなく、身体の中の防御機能を活性化させます。遺伝子操作や免疫のメカニズムがわかることでできたワクチンで、非常に画期的です。

日本では3種類くらいのワクチンが開発されつつあります。これが使えるようになるのは、恐らく今年の後半ではないでしょうか。世界から見れば7～8か月遅れています。

国産のワクチンが何故できないのか。実は免疫学は日本の医学の中ではかなり進歩していて、ノーベル賞を頂いている先生もいます。でも、日本人はワクチンの副作用などを気にするワクチンアレルギーがあります。世界の中ではフランスが一番ワクチンを嫌っているそうです。2番目はボスニアなどの東欧の国、3番目が日本だそうです。ですから、世界では常識になっている子宮頸癌ワクチンも日本では普及していません。全国で100人くらいの

人に接種後手足が不自由になる症状が出たので、厚労省もワクチン接種に積極的でないのですが、子宮頸癌で亡くなる方は毎年3千人ほどいます。接種すればその80%位は死なずに済むのです。日本全体がワクチンに対する考え方を変えないといけません。国も積極的にワクチン開発をしてこなかったのが、今回のワクチンの遅れにあると言われています。これを機会に国や人類を守るのはワクチンが重要であることを皆さんが認識して、新しい日本が出来て行くといいなと考えています。



出席報告

植山 和人 出席委員

会員数	47名
出席者数	22名
出席算定会員数	37名
出席率	59.46%
前々回出席者数	45名
前々回出席率	95.74%

浜松江之島高校
環境保全ポスター表彰式
*1月26日（火）
クリエート浜松3階

